

草の芽句会だより

NO,112,
17,12,7

大寺の松落葉搔く年用意
立ち登り流るる香煙初詣

貞

年の瀬の読経の太鼓鳴り響く
五百羅漢の五百面相冬うらら

文子

友と会ううれしさ冬日暖かし
お札所の鐘のひびきや山紅葉

芳子

毘沙門天拝む背中の冬日かな
開運招福吾にも欲しい年の暮

禮子

香煙を纏いただよふ冬札所
若き二人般若心経冬日和

貞子

恙なく迎えし日々や八つ手咲く
美容院の大ガラス拭く年の暮

節子

剪定のはしごそのまま時雨けり
稚児大師の背に冬山の赤々と

範子

寺町を語りつつ行く小春日を
せせらぎの音冬ざるる札所裏

純子

日のぬくみありし銀杏拾いたる
別院のお庭つづきに冬菜畑

剋子

出席者 真鍋 小林 馬場 吉崎 川原
大黒 氏家 森 小山



晴天に恵まれ納句会は全員出席の盛会である。吟行地は恒例の総本山善通寺。観光バスが続々と到着しお遍路さんが参道を行き交っている。昨今は御朱印帳ブームとかで若者のグループも多い。御影堂には絶え間なく香煙がたち上り香色山の紅葉は最後の華やぎを見せている。大楠の茂みは薄暗く神秘的で両手を合わせる人の姿も。師走のお札所を歩きまわった疲れもなんのその、お弁当が待っているせいも、いつもに増して力作が出揃う。「お大師さんはええ所やなあ」続けてきたからこそわかるのは吟行は大切な勉強の場であるということ。「楽しかったなあ」「来年も元気で」を合言葉に、皆で「うさぎ追いし・・」を唄って散会。よいお年を！